

業 種	海運(旅客)																											
取組分野	安全重点施策の確実な実施等																											
テーマ	安全重点施策の達成状況の的確な把握																											
取組の狙い	安全目標達成計画の進捗状況について、隔月でレビューを実施し、きめ細かく軌道修正を施しながら、目標の達成を図る。																											
具体的内容	<p>鶴見サンマリン(株)では、船舶の安全運航にかかわる安全目標(=安全重点施策)を設定し、責任者や行動主体、達成期限等を明確にしたうえで、目標を達成するための具体的な手段(計画)を講じています。</p> <p>安全目標及び目標達成計画は、従来の安全重点施策の達成状況及び別途定められた月間安全重点項目等を考慮のうえ関係部署で年間 5~6 項目設定され、経営トップの承認を経てすべての要員に周知しています。</p> <p>さらに、計画の進捗状況は、計画遂行の責任者から毎月提出される「監視・測定記録」によって把握し、実績を取りまとめて要員に周知するとともに、2 カ月に 1 度、安全部会でレビューを実施、必要に応じて計画を見直す等、目標達成のために各種の取り組みを実行しています。</p> <p>平成 21 年度の安全目標についても、隔月でレビューを実施し、きめ細かく軌道修正等を施して目標を達成することとしています。</p> <p>【2009年度 目標達成計画の一例】</p> <table border="1"> <tr> <td rowspan="8">5</td> <td rowspan="8">船舶グループ</td> <td>部署の役割</td> <td>船体設備の保守整備を行ない、十分な性能を維持することで安全運航に寄与する。</td> </tr> <tr> <td>管理目的</td> <td>十分な性能を維持した船舶の提供。</td> </tr> <tr> <td>管理目標</td> <td>船体設備損傷による船舶の不稼働を発生させない</td> </tr> <tr> <td>目標値</td> <td>故障による不稼働日 0 日</td> </tr> <tr> <td>比較実績値</td> <td>2008 年度実績 船体設備損傷による不稼働日 4.5 日</td> </tr> <tr> <td>監視方法</td> <td>故障報告書、整備計画書、訪船報告書</td> </tr> <tr> <td>責任者</td> <td>船舶グループ部長</td> </tr> <tr> <td>行動の主体</td> <td>管理船舶、船舶グループ工務</td> </tr> </table> <table border="1"> <tr> <td rowspan="2">                 (船舶グループ)                  1) 訪船して設備の状況及び整備計画の実施状況を把握すると共に、不具合箇所があれば、早期是正を指示する。                  2) 訪船、文書等により、海陸の意思疎通を図る。また、情報を共有し、相互の協力体制を強固なものとする。                  3) メーカー、関係団体等から技術情報、トラブル事例等を入手し、船舶へ提供することで、乗組員の技術、知識の向上を助成する。                  4) 入渠工事時は、航海中に点検できない箇所を漏れなく点検し、不具合箇所の早期発見、是正に努める。新造船、高船齢船は特別な注意を以って保守にあたる。                  (管理船舶)                  1) 毎日の点検により機器の状況を把握する。不良設備は早急に整備して不安定な状況を除去する。                  2) 定期的に設備の効力テストを行ない、性能の維持を確認する                  3) 年間整備計画、長期整備計画に添って定期的な整備を実施する。             </td> <td>見直し</td> <td>メンテナンスレビュー</td> <td>結果判定</td> <td>4月1日 ~3月31日</td> </tr> <tr> <td>←</td> <td>○ ○ ○ ○ ○ ○</td> <td>○</td> <td>隔月で レビュー (安全部会)</td> </tr> </table>	5	船舶グループ	部署の役割	船体設備の保守整備を行ない、十分な性能を維持することで安全運航に寄与する。	管理目的	十分な性能を維持した船舶の提供。	管理目標	船体設備損傷による船舶の不稼働を発生させない	目標値	故障による不稼働日 0 日	比較実績値	2008 年度実績 船体設備損傷による不稼働日 4.5 日	監視方法	故障報告書、整備計画書、訪船報告書	責任者	船舶グループ部長	行動の主体	管理船舶、船舶グループ工務	(船舶グループ) 1) 訪船して設備の状況及び整備計画の実施状況を把握すると共に、不具合箇所があれば、早期是正を指示する。 2) 訪船、文書等により、海陸の意思疎通を図る。また、情報を共有し、相互の協力体制を強固なものとする。 3) メーカー、関係団体等から技術情報、トラブル事例等を入手し、船舶へ提供することで、乗組員の技術、知識の向上を助成する。 4) 入渠工事時は、航海中に点検できない箇所を漏れなく点検し、不具合箇所の早期発見、是正に努める。新造船、高船齢船は特別な注意を以って保守にあたる。 (管理船舶) 1) 毎日の点検により機器の状況を把握する。不良設備は早急に整備して不安定な状況を除去する。 2) 定期的に設備の効力テストを行ない、性能の維持を確認する 3) 年間整備計画、長期整備計画に添って定期的な整備を実施する。	見直し	メンテナンスレビュー	結果判定	4月1日 ~3月31日	←	○ ○ ○ ○ ○ ○	○	隔月で レビュー (安全部会)
5	船舶グループ			部署の役割	船体設備の保守整備を行ない、十分な性能を維持することで安全運航に寄与する。																							
				管理目的	十分な性能を維持した船舶の提供。																							
				管理目標	船体設備損傷による船舶の不稼働を発生させない																							
				目標値	故障による不稼働日 0 日																							
				比較実績値	2008 年度実績 船体設備損傷による不稼働日 4.5 日																							
				監視方法	故障報告書、整備計画書、訪船報告書																							
				責任者	船舶グループ部長																							
		行動の主体	管理船舶、船舶グループ工務																									
(船舶グループ) 1) 訪船して設備の状況及び整備計画の実施状況を把握すると共に、不具合箇所があれば、早期是正を指示する。 2) 訪船、文書等により、海陸の意思疎通を図る。また、情報を共有し、相互の協力体制を強固なものとする。 3) メーカー、関係団体等から技術情報、トラブル事例等を入手し、船舶へ提供することで、乗組員の技術、知識の向上を助成する。 4) 入渠工事時は、航海中に点検できない箇所を漏れなく点検し、不具合箇所の早期発見、是正に努める。新造船、高船齢船は特別な注意を以って保守にあたる。 (管理船舶) 1) 毎日の点検により機器の状況を把握する。不良設備は早急に整備して不安定な状況を除去する。 2) 定期的に設備の効力テストを行ない、性能の維持を確認する 3) 年間整備計画、長期整備計画に添って定期的な整備を実施する。	見直し	メンテナンスレビュー	結果判定	4月1日 ~3月31日																								
	←	○ ○ ○ ○ ○ ○	○	隔月で レビュー (安全部会)																								
取組の効果	目標達成計画の進捗報告、レビューをきめ細かく行い、弾力的に計画を見直すことが、関係部署における目標達成に向けた強い意識付けと、問題に積極的に取り組む姿勢につながっている。																											
事業者名	鶴見サンマリン(株) (連絡先:船舶安全本部 安全管理グループ 電話 03-3591-1140)																											